

【報道発表資料】

第 32 回コカ・コーラ環境教育賞 文部科学大臣賞・環境大臣賞・財団賞(最優秀) および優秀賞 受賞団体決定

- ◆活動普及部門 小学生 文部科学大臣賞
石巻市立大谷地小学校 (宮城県石巻市)
- ◆活動普及部門 中学生 環境大臣賞
石垣市立石垣中学校 生徒会執行部 (沖縄県石垣市)
- ◆企画・研究推進部門 コカ・コーラ教育・環境財団賞
熊本県立南稜高等学校総合農業科環境コース (熊本県球磨郡)
- ◆活動普及部門 小学生 優秀賞
福井県大野市上庄小学校 (福井県大野市)
伊奈町立小針北小学校 (埼玉県北足立郡)
- ◆活動普及部門 中学生 優秀賞
長野県立科町立立科中学校生徒会 (長野県北佐久郡)
姫路市立安富中学校 (兵庫県姫路市)
- ◆企画・研究推進部門 優秀賞
熊本県立菊池農業高校 竹資源研究班 (熊本県菊池市)
奈良県立磯城野高等学校 Flowers & Seeds (奈良県磯城郡)
SF キーパーズ(Sea と Forest の守り人) (愛媛県今治市)

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団(所在地:東京都渋谷区、理事長:井辻 秀剛、以下当財団)は、環境保全・環境教育に関する顕著な活動への顕彰および環境保全・環境啓発・環境美化に寄与する新しい企画への支援をおこなう「第 32 回コカ・コーラ環境教育賞」(協力:読売新聞社、後援:文部科学省、環境省)の最終選考会および表彰式を 10 月 17 日(土)におこないました。

本年は、一次の書類選考で選ばれた全国の小学生から大学院生までの 18 団体(活動普及部門:11 団体、企画・研究推進部門:7 団体)による最終選考(プレゼンテーション)により受賞団体を決定いたしました。両大臣賞・コカ・コーラ教育・環境財団賞受賞団体の受賞コメントは以下の通りとなります。



【活動普及部門(小学生) 文部科学大臣賞】

石巻市立大谷地小学校 (宮城県石巻市)

これまで活動に携わってくださった地域の方々や先生方、先輩方とともに取り組んできた活動が、このような賞をいただくことにつながり、大変嬉しく思っています。

今回の受賞は、地域の皆さんと力を合わせて活動を続けてきた成果だと感じています。

これからも、地域の皆さんと協力しながら、環境に関する取り組みを続けていきたいと思っています。

【活動普及部門(中学生) 環境大臣賞】

石垣市立石垣中学校 生徒会執行部 (沖縄県石垣市)

このような賞をいただくことができ、執行部 5 名一同、大変嬉しく思っています。

今回制作したかりゆしウェアは、野菜くずから色を抽出し、廃棄リネンを活用して、生地のカットから縫製まで自分たちで行いました。「どうすれば環境に優しいものづくりができるのか」を考えながら、活動に取り組んできました。

制作にあたっては、ペットボトルキャップを再利用してボタンを作るなど、さまざまな試行錯誤を重ね、ようやく形にすることができました。その成果が今回の受賞につながり、大変嬉しく思っています。

今後は、この活動を地域だけでなく、世界中へと広げていけるよう、頑張っていきたいと思っています。

【企画・研究推進部門 コカ・コーラ教育・環境財団賞】

熊本県立南陵高等学校総合農業科環境コース (熊本県球磨郡)

私たちはこれまでもさまざまな大会に参加してきましたが、今回発表した内容で賞をいただくのは初めてのことで、これまで取り組んできた甲斐があったと感じており、大変嬉しく思います。

また優秀賞は、以下の団体が受賞しました。

【活動普及部門(小学生) 優秀賞】

福井県大野市上庄小学校 (福井県大野市)

伊奈町立小針北小学校 (埼玉県北足立郡)

【活動普及部門(中学生) 優秀賞】

長野県立科町立立科中学校生徒会 (長野県北佐久郡)

姫路市立安富中学校 (兵庫県姫路市)

【企画・研究推進部門 優秀賞】

熊本県立菊池農業高校 竹資源研究班 (熊本県菊池市)

奈良県立磯城野高等学校 Flowers & Seeds (奈良県磯城郡)

SF キーパーズ (Sea と Forest の守り人) (愛媛県今治市)

活動普及部門 文部科学大臣賞、環境大臣賞(最優秀)受賞団体には各 30 万円、優秀賞受賞団体には 10 万円の活動助成金が贈られます。また、企画・研究推進部門 コカ・コーラ教育・環境財団賞(最優秀)受賞団体には 50 万円、優秀賞受賞団体には 10 万円の活動助成金が贈られます。また、最終選考会上で学校法人 登別立正学園プログラミング教室「のぼプロ」(北海道登別市)の「環境ハウス賞」受賞が決定しました。当団体は 1 月 9 日～11 日のコカ・コーラ環境ハウス体験学習会に招待いたします。

【第 32 回コカ・コーラ環境教育賞 選考委員長 総評(抜粋)】

総合地球環境学研究所 教授、
公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団 評議員 浅利美鈴

皆様、本当にありがとうございました。

選考委員を代表して、他の選考委員のご意見も踏まえながら、総評を述べさせていただきたいと思います。
活動普及部門(小中学校)のテーマは「つかう責任」でした。

私自身、ごみの研究に長年取り組んでおりますので、どのような活動のお話が聞けるのか楽しみにしておりましたが、想像もつかないような活動に取り組まれている団体が多く、大変驚かされました。

研究や調査にとどまらず、地域の方々を巻き込み、普及活動という枠を超えて、地域貢献につながるような取り組みも数多くあり、大変勇気づけられました。ありがとうございます。

企画・研究推進部門においては、高校生に加えて大学生からの応募もありましたが、今回はすべて高校生が最終選考にノミネートされたということで、高校生の皆さんのパワーに本当に圧倒される思いでした。

プレゼンテーションの中では人口減少についてのお話もありましたが、皆さんが地域貢献の担い手となっている姿を拝見し、まさに地域の宝であると感じるとともに、非常に勇気づけられました。

今後、私たちがお手伝いできることがあれば、ぜひ協力したいと思っております。

今回、惜しくも受賞に至らなかった団体の皆様もいらっしゃいます。残念に思われているかもしれませんが、審査結果は本当に僅差でした。最終選考会に残られたということだけでも、ぜひ自信を持って、これからも活動を続けていただきたいと思います。

本賞には「競争」という側面もありますが、現在、私自身が所属する総合地球環境学研究所では、持続可能な社会の「共創」を目指し、全国約 200 の大学からなるネットワークを通じた活動にも取り組んでおります。特に環境の持続可能性という分野においては、互いに競い合い、高め合いながら前に進んでいくことも大切ですが、それと同時に、それぞれの知恵を持ち寄り、共に新しいものを創り上げていくことも非常に重要です。

全国にこれだけ多くの、共に未来を創っていく仲間がいるということ、大変心強く感じました。

ぜひ、コカ・コーラ環境教育賞をきっかけに、コンペティティブな競争相手としてだけでなく、「共創」の仲間としてつながり、今後も活動に取り組んでいただきたいと思います。

コカ・コーラ環境教育賞は 1994 年の賞設立以来、環境教育・環境保全活動の促進を目的に、地域に貢献するボランティア活動の助成・支援をおこなっており、これまでの応募団体数は全国で 2,600 団体以上に上ります。

本賞の概要およびライブ配信でおこなった表彰式の模様(後日アップ予定)等は以下ホームページにてご覧いただけます。

【第 32 回コカ・コーラ環境教育賞特設ページ】

<https://www.cocacola-zaidan.jp/environment/env-prize/32nd/>



(財団井辻理事長による開会挨拶)



(活動普及部門 小学生 文部科学大臣賞)



(活動普及部門 中学生 環境大臣賞)



(企画・研究推進部門 コカ・コーラ教育・環境財団賞)

《第 32 回コカ・コーラ環境教育賞 受賞団体活動概要》

【活動普及部門(小学生) 文部科学大臣賞】

●石巻市立大谷地小学校 (宮城県石巻市)

本活動は、「詰替パック」の回収・再活用を通じて資源循環と地域交流の創出を目指す取組である。児童による回収箱製作や情報発信から始まり、毎年10月には学区内にある道の駅「上品の郷」を会場としてイベントを開催し、学びを発信している。地域を巻き込んだ取組は、多くの発表の機会を得て認知度が高まっている。

【活動普及部門(小学生) 優秀賞】

●伊奈町立小針北小学校 (埼玉県北足立郡)

町の花バラの栽培を通じ、児童主体で SDGs「つかう責任」に挑む自己財源型の環境循環プロジェクト。地域の廃棄物(雑草、馬糞、米糠、落ち葉)を活用した 3,000L の堆肥や、微生物の力でバラの病気を防ぐ無農薬栽培、ハーバリウム等のバラのアップサイクル販売により、持続可能な循環経済と地域連携を体現している。

●福井県大野市上庄小学校 (福井県大野市)

本校では、シママミズの力で生ごみを堆肥に変える「ミミズごみコンポスト」と、約 8,000 本のひまわりを育てる「上庄ニコニコひまわりプロジェクト」の2つを柱に SDGs の達成を目指す活動に取り組んでいます。CO₂ の排出量削減を目的とするだけでなく、命や資源の循環を学び、自然とのつながりや地域とのつながりを大切にしながら、持続可能な地域づくりを目指しています。

【活動普及部門(中学生) 環境大臣賞】

- 石垣市立石垣中学校 生徒会執行部(沖縄県石垣市)

石垣島で大量廃棄されるホテルリネンに着目し、廃棄リネン・野菜くず・ペットボトルキャップを組み合わせ、沖縄の正装「かりゆしウェア」へ再生する活動を実施しました。生徒主体で素材回収から草木染め・縫製・ボタン作りまで完遂。展示発表を通じて、地域へ身近な資源循環と「つかう責任」の大切さを発信しています。

【活動普及部門(中学生) 優秀賞】

- 長野県立科町立立科中学校生徒会 (長野県北佐久郡)

不登校・特別支援・副学籍生徒を含む全ての生徒が役割を持つ包摂的な食育として立科町の農業担い手不足と給食食材費の高騰を背景に、校歌に歌われる「塩沢の堰」の開拓精神を受け継ぎ、サツマイモの栽培・販売・給食提供の循環モデルを生徒会が構築した。地域農業と競合しない作物を選び、全ての生徒が役割を持てる包摂的な食育を実現し、学校文化の再生につなげている。

- 姫路市立安富中学校 (兵庫県姫路市)

シカの食害で壊滅した町花アジサイを、生徒が核となり復活させるプロジェクト。学校・地域・企業等による「5者共創」体制で、海洋残滓由来の堆肥活用や開花後のアジサイの活用など、「山と海を繋ぐ資源循環」を実践。活動は大阪・関西万博でも発信され、地域課題を「つかう責任」の学びへ繋げる ESD の先進モデル。

【企画・研究推進部門 コカ・コーラ教育・環境財団賞】

- 熊本県立南陵高等学校総合農業科環境コース (熊本県球磨郡)

令和2年熊本豪雨災害後、熊本県が推奨する「緑の流域治水」に取り組んでいる。現在は、森林の保水力調査から水源涵養機能の数的な証明を行い、リーキーダム(漏水型ダム)による治水を行っている。またブナ林の南限域である地元の白髪岳のブナ林の巨木が20年以上前から枯死していることについて、シカによる食害が大地の乾燥化を招いていることを調査研究により明らかにした。緑の流域治水の実現のために、「木育活動」「防災減災の森づくり活動」「鳥獣被害対策(ジビエ料理の開発)」を継続実施し、普及啓発に努めている。

【企画・研究推進部門 優秀賞】

- 奈良県立磯城野高等学校 Flowers&Seeds (奈良県磯城郡)

水稻を食害するジャンボタニシに対し、梅酒漬梅や段ボールを活用した防除技術を開発。梅投入でも貝が増殖しないこと(生息密度 21 頭/㎡で同等)を証明し、「餌をやり増やしている」という批判を乗り越え被害回避を優先しやり遂げた。段ボール工場の端材活用やカラス捕食のカメラ検証(試行中)を通じ持続的普及を目指す。

- SF キーパーズ(Sea と Forest の守り人) (愛媛県今治市)

学校のある今治市桜井地域の歴史的景観“桜井海岸の白砂青松”において大量発生する廃棄松葉の用途開発・農業用資材としての用途「脱プラ(マルチングシート)効果・(有機)肥料効果・散水作業軽減効果」の研究、および農業用資材「松葉ペレット」の PR・販売や、「松葉ペレット」が持つ環境啓発・探究素材としての効果に着目した、小学生への無償提供、松林の清掃活動。

●熊本県立菊池農業高校 竹資源研究班（熊本県菊池市）

熊本県立菊池農業高校竹資源研究班は、地域の課題である「放置竹林」をバイオマス資源として有効活用し、脱炭素社会の実現に挑んでいます。産学官連携のもと、竹チップでの生ゴミ堆肥化、バイオ竹炭による農地への炭素貯留、国産メンマ製造とピザ開発によるフードマイレージ削減の「3つの挑戦」を実践しています。

■日本のコカ・コーラシステム サステナビリティ

原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売などを担う5つのボトラー会社および関連会社を日本の「コカ・コーラシステム」と呼んでいます。

サステナビリティは、私たちの事業のあらゆる側面に取り入れられており、未来の成長に欠かせない要素といえます。これらの取り組みを通じて、コカ・コーラの使命である『Refresh the World. Make a Difference. (世界中にさわやかさを提供し、前向きな変化をもたらすこと)』の実現を目指しています。

日本コカ・コーラ サステナビリティ公式サイト: <https://www.cocacola.co.jp/sustainability>

■公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団

名 称: 公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
英字名称: The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation
許可日: 2007年6月25日(※2011年9月27日 公益財団法人へ移行)
理事長: 井辻 秀剛
所在地: 東京都渋谷区渋谷 4-6-3
公式サイト: <https://www.cocacola-zaidan.jp/index.html>
概要: 2007年6月に37年継続していた日本コカ・コーラボトラーズ育英会と14年継続していたコカ・コーラ環境教育財団の事業を継承し、一元的に運営、推進できる母体として設立、2011年9月より公益財団法人に移行しました。心豊かでたくましい人づくり(Healthy Active Life)を理念とし、国際社会が求める青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を通じ、豊かな国際社会の形成及び国際親善に寄与することを目的とし、内閣府に公益認定を受け、事業を展開しています。
主な事業内容: 環境教育、奨学支援、災害復旧・復興支援を柱とした各種社会貢献事業

■雨煙別(うえんべつ)小学校 コカ・コーラ環境ハウス

北海道夕張郡栗山町の歴史ある廃校を宿泊可能な施設として再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、体験型の環境教育プログラムの拠点であり、特定非営利活動法人 雨煙別学校が、自然体験学習を中心とした教育活動を実施しています。2010年のグランドオープン以来、小学校の宿泊学習をはじめ、大学生の実習やスポーツ合宿、企業研修等、多くの人に利用されています。

公式サイト: <http://uenbetsu.jp/>

